

美術部のみなさんと写真を撮ってもらいました！



シャーロックのものの見方

「きみは見ているけど観察していないんだよ」

眞鍋由比

今月のはと時計のテーマが「美術と五感」でした。このごろさわれる作品（手袋をはめているけど）や参加型のワークショップなども増えて、美術がただ見るだけの高尚なものから身近なものになっていきいている気がします。

この『観察力を磨く 名画読解』エイミー・E・ハーマン著 早川書房2016は、名画を経験と情報の集積したものにとらえ、それを使って観察力を磨く話です。

アメリカのホテルで、客室の石鹸は毎日新しいものに取り替えられ、ちょっとだけ使われたものは捨てられることを知ったアフリカ人。毎年200万人以上が下痢性疾患で命を落とすアフリカで、石鹸があれば予防できる！そして故郷アフリカにホテルから出るゴミ＝アフリカでは宝を調達できるシステムを作った起業家の話がでできます。ものの見方を知っていれば、社会を変えることができる！

テロリストがモールを占拠した。モールを占拠するならあらかじめ武器など搬入して準備していたはずなのに、だれもそれを見ていなかった。そして考えもせず音のする方向に向かってテロリストの銃口の前に飛び出してしまうことになる人もいれば、自分で銃弾が抜けるかもしれないからもっと厚い板の裏にかくれるなど、考えて動く人との差もでてくる。

たとえばバスケットボールのパスをしている動画を見せて、「パスの回数を数えて」と指示を出します。するとパスしている後ろをとおる女性がゴリラの着ぐるみを着ていても、5割の人は気づかない。生理的盲点というそうです。観察していないわけですね。見てはいるけど。

「パスの回数を数えて」と指示を出

ニューヨークで一番セキュリティの行き届いたマンションで殺人があった。エレベーターも専門のキーがないといけず、まず一階の受付で名前をノートに書かないと通してもらえない。監視カメラで誰が殺したのか、チェックすると…武器（凶器）を持っている人はだれもいないんだけど、ズボンを裏返して穿いている人がいた。入ってきたときはふつうに穿いていてズボンのポケットは外側についていたのに？……そう、この人が犯人でした。返り血をあびているのでズボンを普通に穿いてはでていけなかったというわけ。



観察力が自分の生き死にを分ける場合があります。この作者の観察の方法が、FBIやCIAの研修に取り入れられているというのわかるような気がします。偏りのない、思い込みのないものの見方、適切な情報分析・伝達・表現。自分は何を知っていて、何を知らなくて、何を知るべきなのかわかっていることって大切ですよ？

すべての情報を処理するなんて無理です。脳は重要でないと思う情報は省いて見てしまう。冷蔵庫の一番手前の棚にマヨネーズがあるのに、ないないって奥ばかりさがしてしまうことってあるでしょう？

フェルメールは？モネは？
見逃していることはない？

この本を読んで名画を使った情報分析をやってみませんか？ふだん見慣れた名画が違うように見えてきて、ふだんどこを観察すべきか、意識が変わってきます。